

会 議 録		令和 5 年 9 月 12 日 作成	令和 9 年 3 月 末 日 廃 棄
会議名	京都府舞鶴警察署協議会（令和 5 年度第 1 回）		
開催日	令和 5 年 7 月 5 日（水曜日）		
時 間	午後 4 時から午後 5 時 30 分までの間（90 分）		
場 所	京都府舞鶴警察署 東庁舎講堂		
出席者	宮本会長、吉岡副会長、土井副会長、伊庭委員、福本委員、船越委員、 加藤委員、桑村委員、前田委員、矢野委員 （欠席 澤江委員） 計 10 人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、 地域課長代理、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴相談係長 計 11 人		
諮 問 事 項	交通死亡事故の発生状況と対策について		
会 議 内 容	1 委嘱状交付 司会 副署長		
	2 会長挨拶 3 署長挨拶 4 舞鶴警察署幹部署員紹介 5 舞鶴警察署協議会委員紹介 6 協議 司会 会長		
	諮問事項説明 交通死亡事故の発生状況と対策について～交通課長 【委員】道路上で自転車が走るべきレーンがよく分からない。青色で表示されていたり、歩道を走ってもよい所があったりと、自分できちんと理解しておかないと戸惑ってしまう。また、道幅が狭く、自転車が通行するには整備が不十分な道路もたくさんある。そんな現状を反映してか、最近、自転車が当事者となる重傷・死亡事故のニュースをしばしば目にする。我々の世代にとって自転車は、「どこでも、どちら向きにでも走ることができる」という非常に便利な乗り物であった。しかし、そういう安易な感覚が重大事故を積み重ね、現在に至っている。ヘルメットの着用が努力義務となった今、自転車に関しては更なる見		

会 議  
内 容

直しが必要だと感じている。

【委員】私が現在の交通事情に感じているのは、平気で信号無視をする人が多いということである。我々が子どもの頃、機会あるごとに交通ルールや交通モラルを教え込まれた。しかし、今の若い人にはそういう機会が少なかったのか、交通法規を守っている車両に気を使うことなく堂々と道路を横断（信号無視）する姿を見る。また、スマホに気をとられて自分の子どもから目が離れている親もよく見掛ける。もっと社会全体で交通ルールを意識する状況を作っていかなければならないと思う。

【委員】自動車を運転する際、歩行者信号を見て対面信号の変わる時期を察知しているが、歩行者信号が見えにくい場所がある。その対策として、対面信号の横に点滅の補助信号が付けば良いと思う。

【委員】私は中学校教諭として生徒の指導に携わってきた。子ども達は、注意をした時にはきちんと交通ルールを守るが、大人たちの目がいないところでは直ぐに元の状態に戻ってしまう。警察にも登下校時に目を光らせてほしいと思う。ヘルメットについては、まだまだ中学生の着用率は完全ではない。また、自転車に乗車した状態での「ながらスマホ」も見られ、教育委員会としては課題だと考えている。

【委員】私は現在、民生委員という立場で高齢者の見守り活動を行っている。高齢者にとって免許返納は深刻な課題で、日常生活に大きな影響が出るため、返納を渋る人が非常に多い。そこで、定期的に駐在所に交通安全教室を実施してもらっている。教室では、交通事故に遭わない対策、誤操作を防ぐ運転、そして交通事故の怖さを教えてもらい、少しずつではあるが、返納を考える人も出てきている。子ども達のヘルメット着用については、まだまだこれからといった感じである。大人たちが口を酸っぱくして教え諭し、着用率を上げていきたい。

【委員】私は年齢を重ねるごとに、運転に自信を持てなくなってきた。街灯のない道路を走行した際、歩行者を見落とす場合を考えて怖いと感じることがあるため、夜間や長距離の運転は極力避け、今後は返納の時期も考えていかなければならない。運転は社会的責任が非常に重いいため、自分の都合で安易に考えてはならない。

【委員】飲酒運転の取締りは昔に比べ、かなり厳しくなったと感じている。警察には頑張ってもらっていると思うが、舞鶴市ではまだまだ安易に飲酒運転をする人が多い。その理由は田舎の交通事情につきると思う。交通インフラがもっと整備されれば、飲酒運転は少なくなっていくと思う。

【委員】今から50年以上前、東舞鶴高校には無灯火、二人乗り、傘差し運転

会 議  
内 容

を厳しく処分する校則があった。当時、そこまでの校則を定めている高校は非常に少なく、その効果は市内全体にまで及んで学生の交通マナーが確実に高まった。そこで、ヘルメットの着用に関しては警察が学校と連携をとり、例えば校則に盛り込むなどの方法によって推進していけば良いのではないか。

また、自転車を利用する人には「車両」という意識が希薄だと常々感じる。右側を走行したり、通行できない歩道を走行してみたりといった具合である。また、自動車も含めて、横断歩道手前で止まるという意識も希薄である。ヨーロッパでは「横断者がいれば止まる」という意識が非常に高いので、見習っていくべきである。

【委員】今週、舞鶴警察署に「日星高校PTA・朝の交通安全指導」へ参加してもらった。昨年度から数えて4～5回目になると思うが、今回は多数のパトカーで来てもらい、登校してきた子ども達の顔は非常に引き締まって見えた。このような機会だけでなく、例えば交通事故の多い時間帯に交差点付近でパトカーが駐留していれば、自動車・自転車とも注意力が高まると思う。

【委員】私は観光ガイドのボランティアをしているが、舞鶴市でレンタサイクルを利用する観光客が多い。しかしその反面、舞鶴市は自転車が非常に走りにくい街である。また、レンタサイクルにはヘルメットも用意されていないため、観光客の交通事情にも注意をしていかなければならないと思う。

【委員】ヘルメットの着用率を上げるには、地域、企業、学校などがタイアップをして推進していくことが重要だと思う。

【委員】以前は警察官が立っているように見える看板や工作物があったが、最近は見掛けない。効果があったと思うので、今風に改良して復活させてはどうかと思う。

また、近年、電動キックボードや電動自転車など、免許は不要だが大きな危険性をはらむ乗り物が登場してきた。国は曖昧な部分があるものを許可したことに責任があると思う。安全対策をしっかりと議論して行ってほしいと思う。

【委員】三日市側から大河橋を逆走する車両がしばしばある。現在のところ大きな事故は発生していないと思うが、警告看板の設置など、何か対策ができないものか。

【委員】最近では夜間のスピード違反取締りをあまり見掛けない。非常に効果があると思うので、もっと実施していただきたい。

【委員】小学生の登下校時には上級生が旗を持って下級生を誘導し、横断歩道を渡り終わると車に向かってペコリと頭を下げる。私はそれを見る

会 議  
内 容

といつも胸がキュンキュンし、また止まって見守ろうと思う。大人も横断する際に「止まってくれてありがとう」という気持ちがあれば、運転者に心の余裕が生まれて交通マナーが高まると思う。

また、運転免許を取得する際に「かもしれない運転」ということを習った。「あの角から人が出てくるかもしれない」といった、危険を予測する運転のことだが、免許更新の時など、免許取りたての気持ちに戻り、反省することが大切だと思う。

※ 回答が必要な質問・要望については、次回（第2回）に回答を行う予定である。

7 事務連絡

令和5年度第2回京都府舞鶴警察署協議会は令和5年9月中に実施予定である。

以上

## 第1回京都府舞鶴警察署協議会の開催状況

